



2019年3月期 第2四半期 決算説明資料

極東開発工業株式会社



極東開発のグループ構成

極東開発工業株式会社

特装車事業

85%

■ 製造・販売・サービス

- 日本トレクス㈱
- 極東開発(昆山)機械有限公司 (中国)
- MITHRA KYOKUTO SPV CO., PVT. LTD. (インド)
- TREX THAIRUNG CO., LTD (タイ)
- PT KYOKUTO INDOMOBIL MANUFACTURING INDONESIA (インドネシア)
- PT KYOKUTO INDOMOBIL DISTRIBUTOR INDONESIA (インドネシア)

■ サービス

- ㈱エフ・イ・テック
- 振興自動車㈱
- 井上自動車工業㈱

■ 中古車販売

- ㈱FE-ONE

■ 関連

- 極東特装車貿易(上海)有限公司 (中国)

環境事業

9%

■ リサイクル施設の建設/運転受託・メンテナンス

- 極東サービスエンジニアリング㈱
- 極東サービスエンジニアリング北海道㈱
- ㈱モリプラント
- ㈱エコファシリティ船橋

不動産賃貸等事業

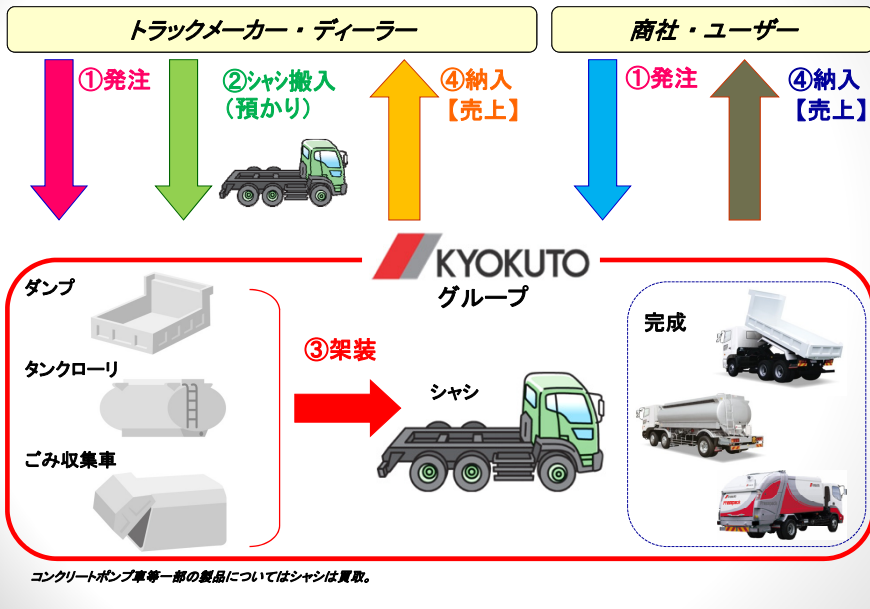
6%

■ 立体駐車装置、コインパーキング

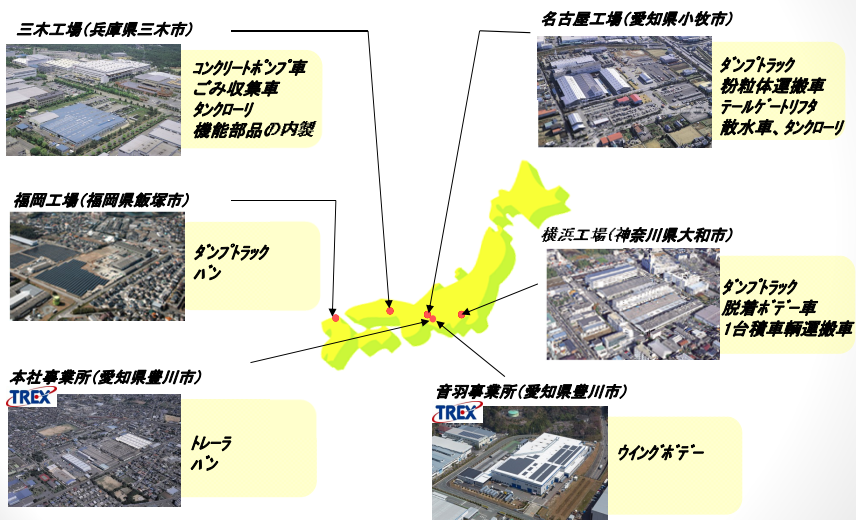
- 極東開発パーキング㈱
- ㈱エフ・イ
- ささしまライブパーキング㈱

<比率は売上構成比(2018年9月期)>

特装車事業



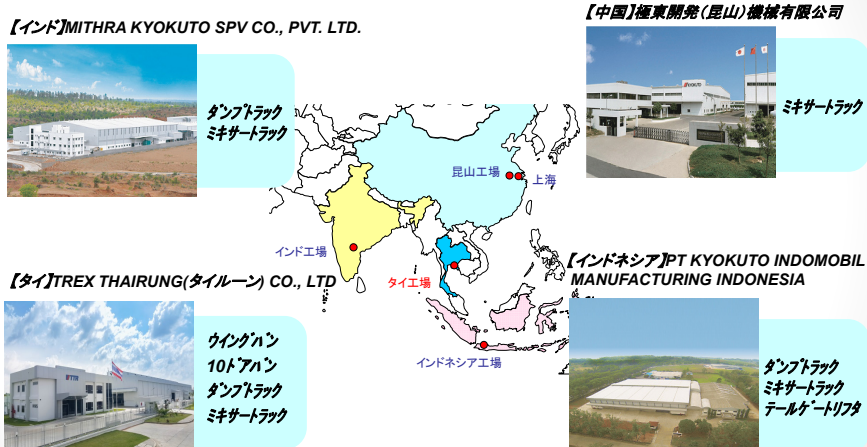
特装車国内生産体制



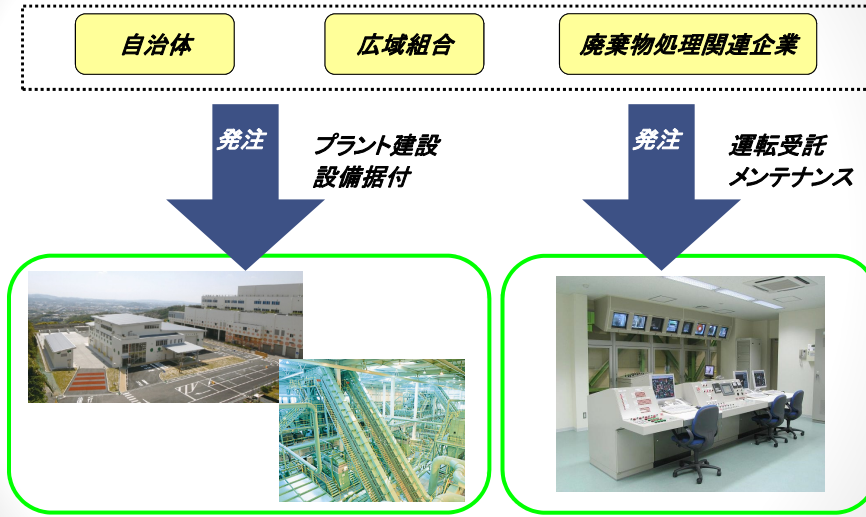
特装車事業（グループ主力製品）



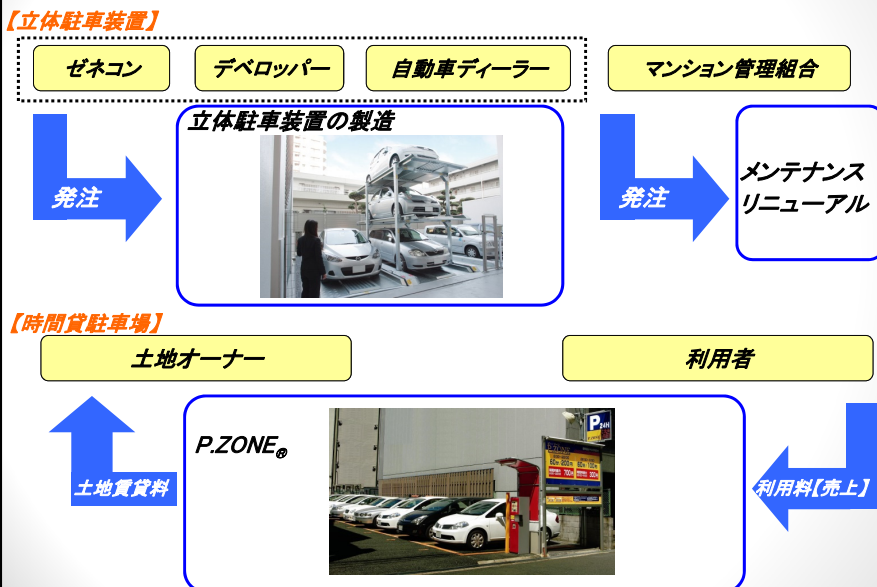
特装車海外生産体制



環境事業



不動産賃貸等事業

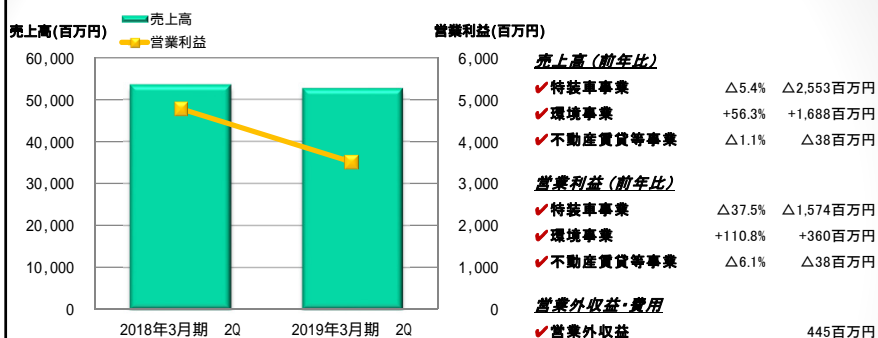


2019年3月期 第2四半期 連結決算実績



9

2019年3月期第2四半期 連結決算



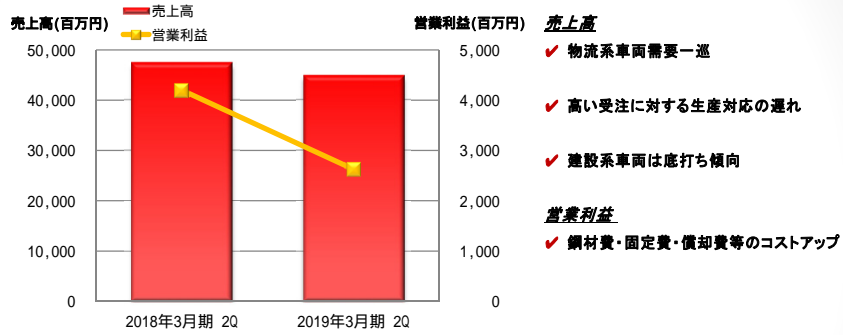
	2018年3月期 2Q 実績	2019年3月期 2Q 実績	前年同期比増減	
売上高	53,858	52,802	△856	△1.6%
営業利益	4,786	3,511	△1,275	△26.6%
経常利益	4,995	3,786	△1,209	△24.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,514	2,578	△936	△26.8%

売上高(前年比)		
✓ 特装車事業	△5.4%	△2,553百万円
✓ 環境事業	+56.3%	+1,688百万円
✓ 不動産賃貸等事業	△1.1%	△38百万円
営業利益(前年比)		
✓ 特装車事業	△37.5%	△1,574百万円
✓ 環境事業	+110.8%	+360百万円
✓ 不動産賃貸等事業	△6.1%	△38百万円
営業外収益・費用		
✓ 営業外収益		445百万円
✓ 営業外費用		171百万円
特別利益・損失		
✓ 特別利益		9百万円
✓ 特別損失		19百万円
親会社株主に帰属する当期純利益(前年比)		
✓ 法人税等		△58百万円

単位:百万円

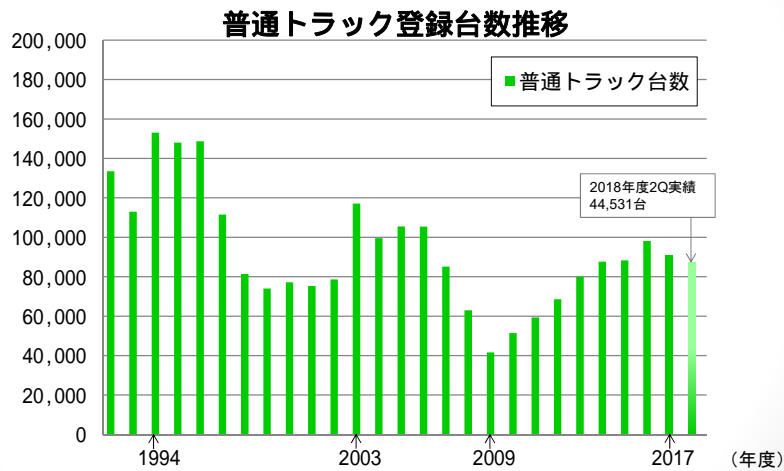
10

2018年3月期第2四半期 特装車事業

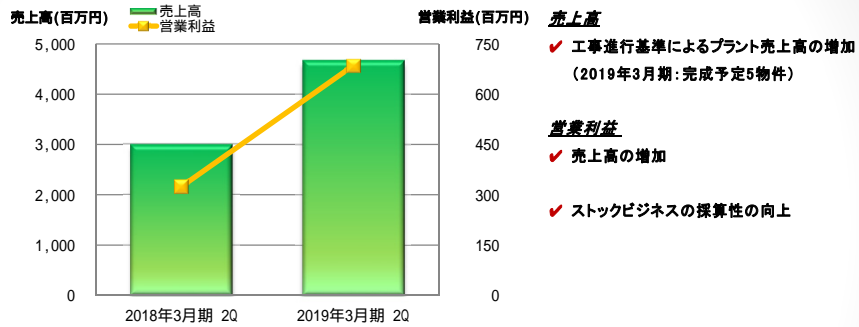


	2018年3月期 2Q実績	2019年3月期 2Q実績	前年同期比増減	
売上高	47,524	44,971	△2,553	△5.4%
営業利益	4,201	2,627	△1,574	△37.5%

2018年3月期第2四半期 特装車事業（市場環境）

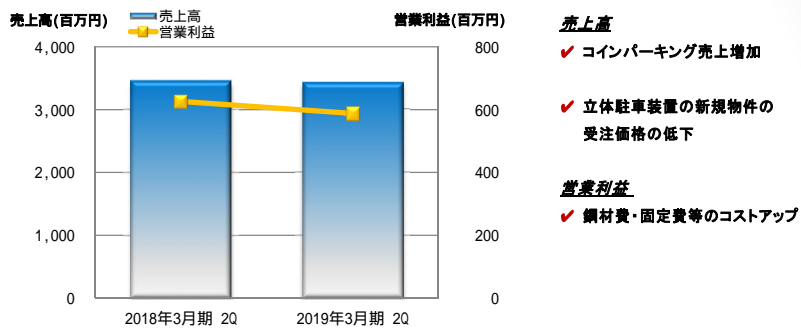


2018年3月期第2四半期 環境事業



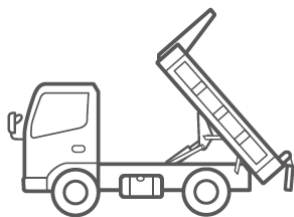
	2018年3月期 2Q実績	2019年3月期 2Q実績	前年同期比増減	
売上高	2,998	4,686	+1,688	+56.3%
営業利益	325	685	+360	+110.8%

2018年3月期第2四半期 不動産賃貸等事業



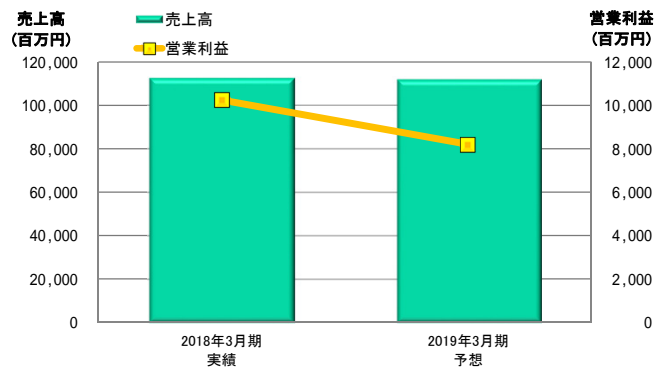
	2018年3月期 2Q実績	2019年3月期 2Q実績	前年同期比増減	
売上高	3,468	3,430	△38	△1.1%
営業利益	626	588	△38	△6.1%

2019年3月期 連結業績予想



15

2019年3月期 連結業績予想

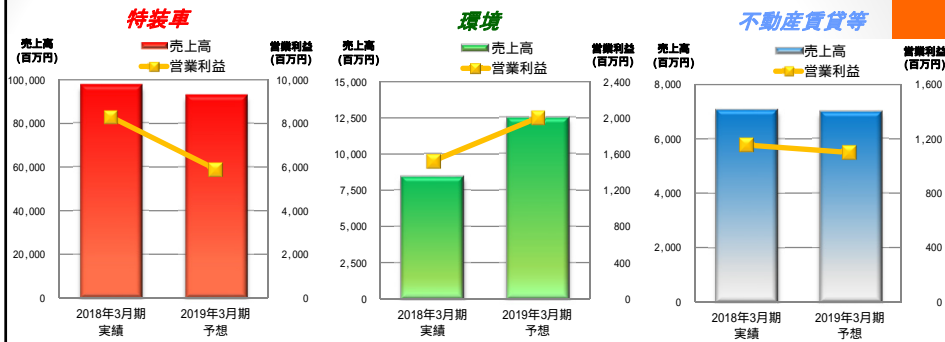


(参考:5月9日発表)

	2018年3月期	2019年3月期	前年同期比増減		2019年3月期	前回予想比増減	
	実績	予想			前回予想		
売上高	112,890	112,000	△890	△0.8%	115,000	△3,000	△2.6%
営業利益	10,245	8,200	△2,046	△20.0%	9,500	△1,300	△13.7%
経常利益	10,330	8,500	△1,831	△17.7%	9,500	△1,000	△10.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,190	6,000	△1,190	△16.6%	6,700	△700	△10.4%

16

2019年3月期 セグメント別予想



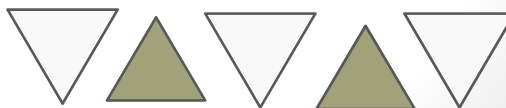
(参考:5月9日発表)

セグメント	項目	2018年3月期	2019年3月期	前年比増減		2019年3月期	前回予想比増減
		実績	予想	前年	増減率	前回予想	増減率
特装車事業	売上高	97,788	93,200	△4,586	△4.7%	96,200	△3,000 △3.1%
	営業利益	8,298	5,900	△2,398	△28.9%	7,200	△1,300 △18.1%
環境事業	売上高	8,457	12,500	+4,043	+47.8%	12,500	+0 +0.0%
	営業利益	1,522	2,000	+478	+31.4%	2,000	+0 +0.0%
不動産賃貸等事業	売上高	7,087	7,000	△87	△1.2%	7,000	+0 +0.0%
	営業利益	1,155	1,100	△55	△4.8%	1,100	+0 +0.0%
調整額	売上高	△ 641	△ 700	△59	-	△ 700	+0 -
	営業利益	△ 728	△ 800	△72	-	△ 800	+0 -

17



今後の取り組み



18

設備投資額・減価償却費・研究開発費

	2018.3期 実績	2019.3期 予想
設備投資	31億円	27億円
減価償却費	23億円	25億円
研究開発費	15億円	14億円

将来に向けての投資 国内生産体制の再整備



国内需要・製品構成の変化に対応できる効率的な生産体制の構築

赤字:2017年度実施完了案件 青字:現在進行中案件 黒字:実行済案件

海外売上の確立

● インド工場: MITHRA KYOKUTO

OEM生産量の確保・拡大
ボデー載替え市場の受取込み



● インドネシア工場: KYOKUTO INDOMOBIL

仕様の見直し、原価低減の推進

製品ラインナップの拡大
(テールゲートリフター・立体駐車装置・ごみ収集車等)



輸出売上の拡大

- 海外戦略製品の展開
(コンクリートポンプ車、ごみ収集車)
- 現地架装・販売パートナーとの提携による販売拡大
- 未開発マーケットの開拓

昆山工場
上海

既存海外拠点の
売上拡大・連結化

● タイ工場: TTR

生産・販売体制の早期確立

現地調達比率の向上による原価低減
ミキサー車追加による生産拡大。



21

安全教育の拡充

従業員の安全意識を高めるために「安全体感装置」を導入。
各拠点を巡回し、本装置を活用した安全教育を実施。

【安全体感装置の種類】

- | | | | |
|----------|------------|----------|------------|
| ①SS | ②チェーン巻き込まれ | ③重荷物落下 | ④回転体巻き込まれ |
| ⑤ゴーグル使用時 | ⑥落下物衝撃 | ⑦鉄板エッジ切れ | ⑧グラインダ振動衝撃 |
| ⑨残圧 | ⑩ボール盤巻き込まれ | ⑪足場及び梯子 | |



【本装置を導入することで、以下の効果を狙う】

- ・実際に危険を体験させ、その危険を知ることによって安全意識の向上を図る。
- ・定期的に使用して経験による理解を深めていき、安全意識の継続を図る。
- ・外国人作業員への安全教育に活用する。

22

TOPICS① 鉄道車両メーカー 北陸重機工業株式会社の全株式を取得

・新潟県の北陸重機工業株式会社の全株式を5月25日付で取得し
グループ化(完全子会社化)

2018年5月25日 株式取得
/ 6月12日発表

・北陸重機工業は、構内等で牽引用に使用されるディーゼル機関車、保線作業用に使用される軌道モーターカー等の鉄道車両や、橋梁・トンネルの維持管理に使用される橋梁点検車・水噴霧測定車等の特装車を製造。

・豊富な国外納入実績を強みに、アジア・アフリカ等の発展途上国をはじめとした海外向け鉄道車両の受注が急増。

➡ “ものづくり”に関するシナジーの創出と海外展開を強化。



ディーゼル機関車



橋梁点検車

23

TOPICS② 2トン車級新型プレス式ごみ収集車 「プレスパック®」

2018年5月17日発表
/ 5月22日発売



GB43-220 (ボデー容積4.3 m³ 2t 車ベース)



GB59-230 (ボデー容積5.9 m³ 3.5t 車ベース)

【特長】

・スライドカバーのワンタッチハンドル、専用設計のLEDリヤランプ、サイドカバーのキャラクターラインなどにより、都市に溶け込む、力強い洗練されたデザイン。

・ボデー断面、フロントパネル形状等のボデー構造の最適化により、ボデー容積及び強度・剛性が向上。

・クラス最大級の投入口幅(2 t車: 1,440mm、3.5 t車: 1,685mm)を確保し、高い作業性を実現。

➡ ごみ収集車のボリュームゾーンである2トン車級プレス式の新型投入でシェアアップを狙う。

24

TOPICS③ 新型「スライドダンプ」

2018年5月29日発表
/ 6月4日発売

【特長】

・従来の土砂運搬・排出を行うことができるダンプ機構に加え、小型建機等の積込・運搬を可能とするスライド機構を装備。1台で2WAYの使用が可能。

・ボデーのスライド操作は標準装備のワイヤレスリモコンで行うことが可能で、高い操作性と安全性を確保。

➡ ダンプトラックの新型投入で建設関連車両のラインアップ強化と売上確保を図る。



ダンプ時



スライド時

25

TOPICS④ 「4トン耐摩耗鋼板仕様リヤダンプトラック」が「2018年度グッドデザイン賞」を受賞

本年2月より発売している「4トン耐摩耗鋼板仕様リヤダンプトラック」が、「2018年度グッドデザイン賞」を受賞。

【特長】

・ダンプトラックに求められている「積載量（軽量化）と耐久性の確保」という相反するニーズに対し、“剛から柔へ”の全く新しい設計思想とデザインコンセプトによって応えた車両。

・緩やかなRを持つ丸底デッキとサイドパネルの一体構造を実現するため、高い硬度と韌性で多くの実績を誇る耐摩耗鋼板「HARDOX」をボデーに採用。

・サイドゲートおよびテールゲートをスチフナ（補強柱）レスとした美しい外観。



➡ 「すっきりとした外観がダンプトラックの印象をソフトで現代的なものに変えており、機能面での優位性や耐久性の向上も含め、本来社会的な存在であるダンプトラックに対して、社会との親和性を向上させる提案となっている」点などが高く評価。

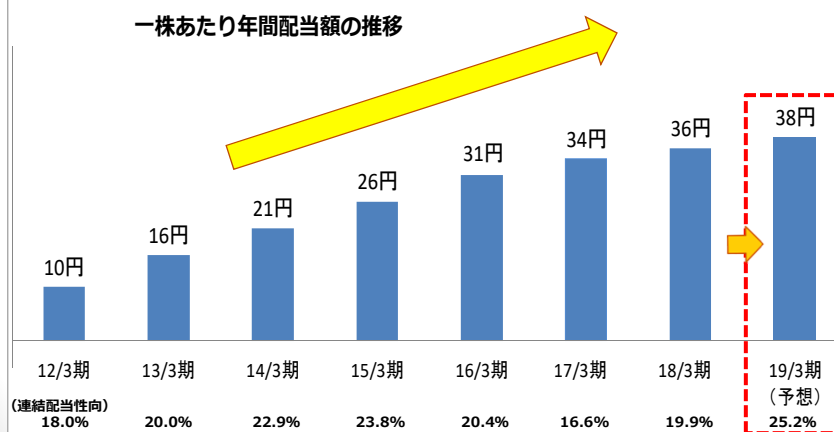
 GOOD DESIGN
AWARD 2018

26

配当政策

配当に関する基本方針

当社グループでは、株主還元を経営の最重要政策の一つと考え、業績の向上と財務体質の強化をはかりながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めています。



27



本資料の予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。本資料の著作権は極東開発工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く本資料を複製・配布することを禁止します。

28